



(金沢)

大友西遺跡は金沢市街地の西方に位置し、北には大野川が、南には犀川が流れ、低湿な沖積平野を形成している。大友西遺跡の南西約400mには、昨年本誌第一六号で報告した戸水大西遺跡が位置する。

検出した平安時代（九世紀代）の主な遺構には、掘立柱建物九棟、井戸五基、皇朝錢を埋納した地鎮跡一カ所などがある。木簡は井戸SE〇一の掘形より出土

石川・大友西遺跡

おおともにし

石川・大友西遺跡

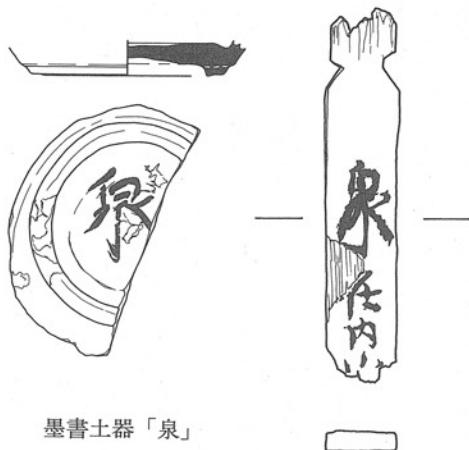
した。SE〇一は、径約八五cm×六六cmの井側の下に網代を敷き、その上に礫と炭からなる浄水施設を備えていた。他に、墨書き土器「東」がSE〇一より、「泉」「庄」が包含層より出土している。

8 木簡の釈文・内容

- 1 所在地 金沢市大友町
2 調査期間 一九九四年（平6）四月～一〇月
3 発掘機関 金沢市教育委員会
4 調査担当者 出越茂和・谷口宗治・前田雪恵
5 遺跡の種類 集落跡・莊園跡
6 遺跡の年代 弥生時代終末、平安時代
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

（1）「泉在内」
「泉」は八世紀後葉の墨書き土器に出現し、九世紀後半まで存続することから、地名の可能性も考えられる。
(出越茂和)

(78)×15×4 039



墨書き土器「泉」